

雌阿寒岳

○雌阿寒岳の地震活動

雌阿寒岳では2月18日、3月11日に群発地震活動が見られた。これらの最近2回の群発地震活動は、いずれの場合も完全に静穏化しないまま、次の活動に移ったことが分かる。図1の◇印は、臨時火山情報(橙)、火山観測情報(黄)。観測開始の1973年から1987年11月までの期間と、それ以後の期間とでは、群発地震の活動様式が非常に異なっていることが読み取れる。群発地震が断続的に繰り返し、ある時は小噴火(▲印)を伴う活動様式が、今回の活動でも繰り返されているようである(図2)。

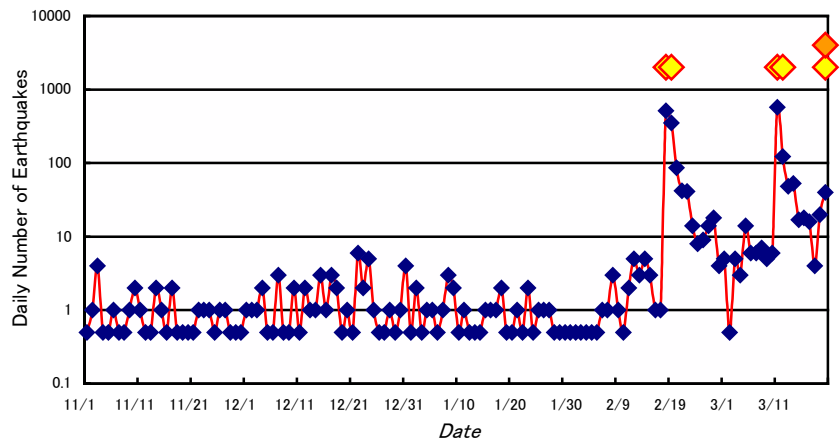
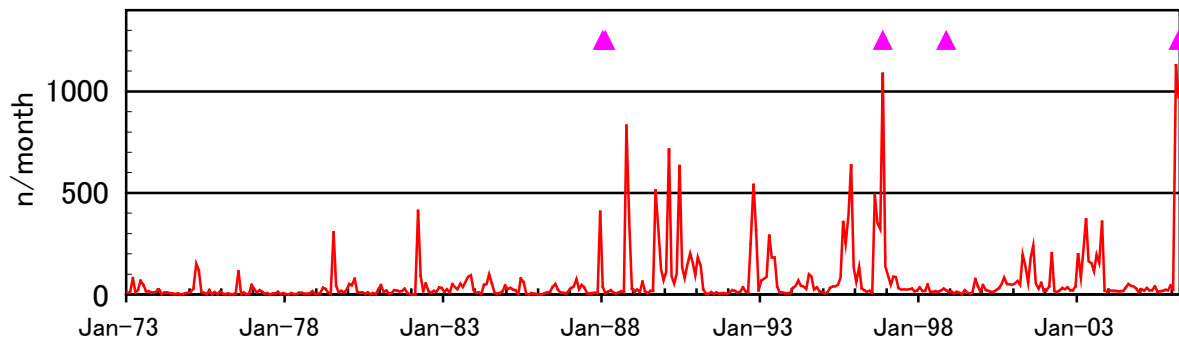


図1. 日別地震回数(紺◇)と火山情報の発表(黄・橙◇).

Volcano Seismicity at Mt. Meakandake (JMA data)



Volcano Seismicity at Mt. Meakandake (JMA data)

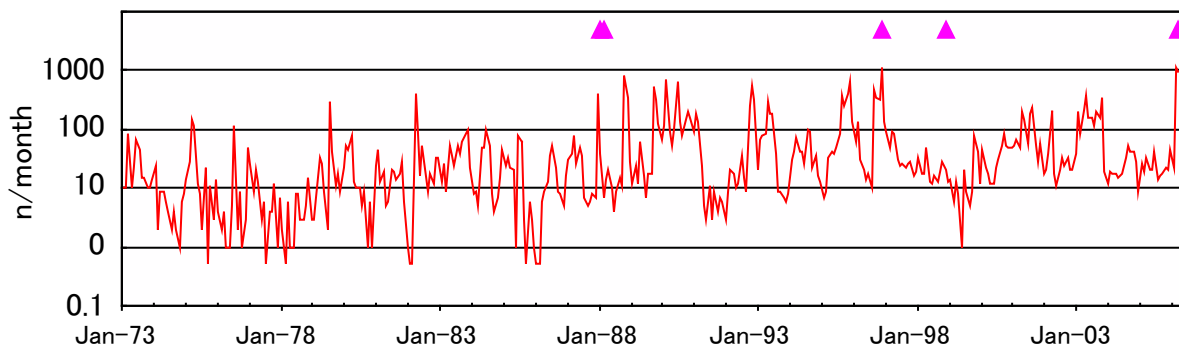


図2. 月別地震回数(線形表示:上と対数表示:下). ▲印は噴火活動を示す.

雌阿寒岳

○雌阿寒岳における最近4回の小噴火と火山性群発地震との関係

雌阿寒岳は、2003年11月以来、火山性地震が極めて少ない状態を27ヶ月間続けていたが、再び火道不安定の状態に入ったものと思われる。このような時期には、火口縁に噴石を飛ばすような小噴火がありうる。地元では登山をしないよう呼びかけている。

図に示した時期のいずれの小噴火でも、噴火開始の1~3ヶ月程度前から群発地震が先行して発生している。しかしながら、これらの群発地震だけを手がかりに日時単位の噴火時刻の直前予測は可能ではない。

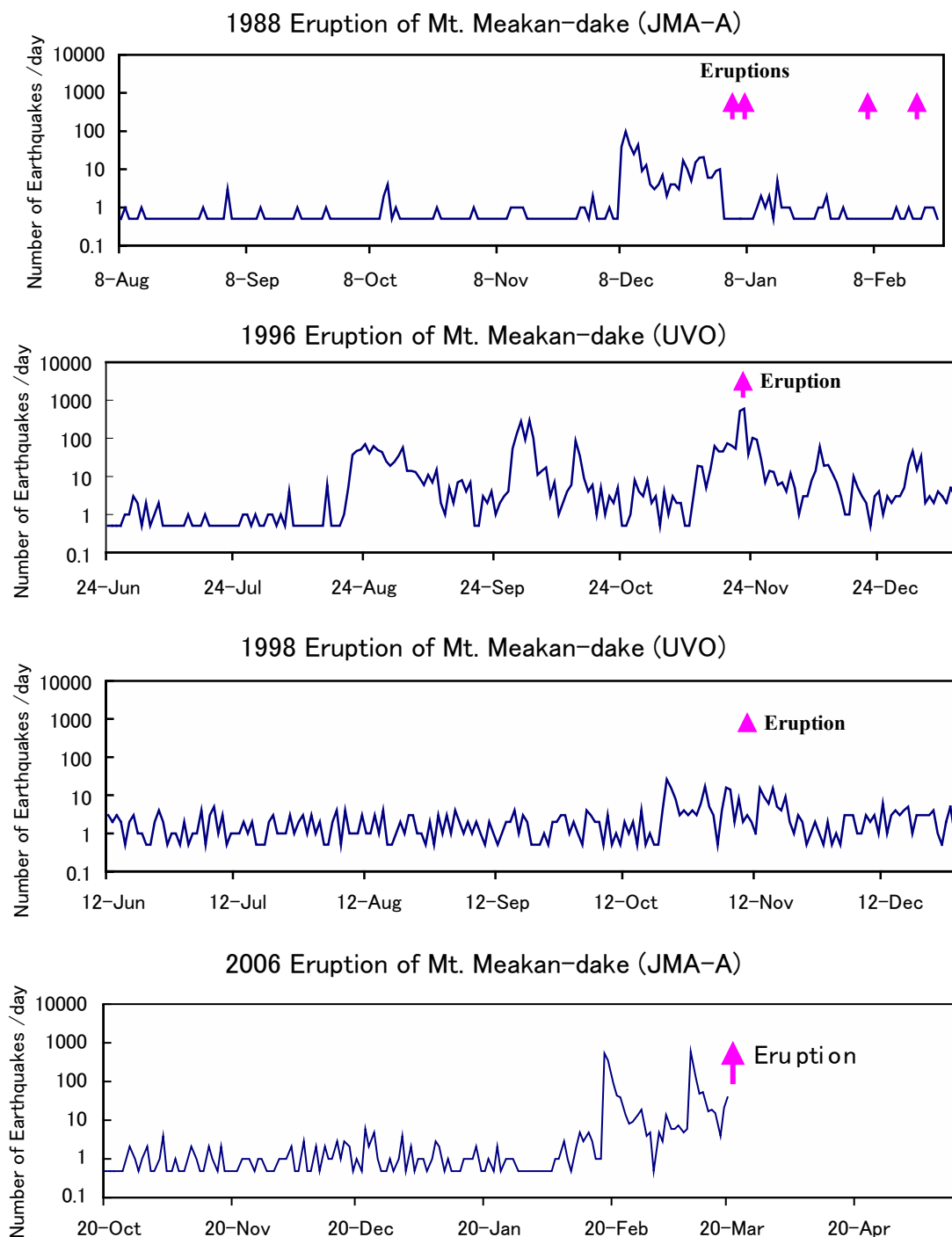


図1. 1988年、1996年、1998年、2006年の噴火直前の地震活動。